表　令和８年 10 月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報の発表履歴

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
十勝岳	火口周辺警報 （噴火警戒レベル３、 入山規制）	解説情報 第 28～31 号	２日、５日、９日 12 日 16 時 00 分	９月 13 日以降、振幅の大きな火山性地震はなし。７日に継続時間 20 分程度の火山性微動が発生し、これに伴い火山性地震が一時的に増加したが、その後は減少。8 日の現地観測で火山ガス（二酸化硫黄）放出量は 800[t/日]。 熱活動が高まった中で、時折振幅の大きな火山性地震が発生するなど、火山活動が活発化。３月以降、山体付近のやや深部の膨張を示す地殻変動が継続し、４月以降は火山ガス（二酸化硫黄）放出量の増加が認められており、火口から概ね３ｋｍの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性がある。
	火口周辺警報 （噴火警戒レベル２、 火口周辺規制）	火口周辺警報	16 日　10 時 00 分	９月 13 日以降、振幅の大きな火山性地震はなく、小規模なものを含め地震は少ない状態で経過、地震活動に低下傾向が認められる。62-2 火口から概ね３km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなった。 一方、62-2 火口及び振子沢噴気孔群付近の高温化、火山ガス（二酸化硫黄）放出量の増加、山体付近やや深部の膨張を示す地殻変動など活発な火山活動は維持しており、引き続き 62-2 火口から概ね 1.5km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性がある。
		解説情報 第 32～34 号	16 日　10 時 10 分 23 日、30 日 16 時 00 分	活発な熱活動がみられる中で、山体付近を震源とする振幅の大きな火山性地震が８月 17 日以降増加したが、９月 13 日以降発生はなく、小規模なものを含めて地震は少ない状態で経過、地震活動に低下傾向が認められる。このため、62-2 火口から概ね３km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと判断し、16 日 10 時 00 分に噴火警戒レベルを３から２に引き下げた。 一方、62-2 火口及び振子沢噴気孔群付近では、噴煙・噴気の高さの増大、発光現象の多発、振子沢噴気孔群の高温化など熱活動が高まった状態が継続。３月以降、山体付近やや深部の膨張を示す地殻変動が継続し、４月以降は火山ガス（二酸化硫黄）放出量の増加や 62-2 火口付近及びその周辺の地震活動も時折活発化。 引き続き 62-2 火口から概ね 1.5km の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性がある。
桜島 （次頁へ続く）	火口周辺警報 （噴火警戒レベル３、 入山規制）	解説情報 第 89～97 号	２日、５日、９日、 12 日、16 日、19 日、 23 日、26 日、30 日 16 時 00 分	南岳山頂火口で噴火活動継続。５日、21 日、22 日、24 日、25 日、28 日に爆発。噴煙は最高で火口縁上 2200m。大きな噴石は最大で火口から 900m まで達する。夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。昭和火口では噴火及び火映はない次頁に続き。 火山性地震は少ない状態で経過。火山性微動が時々発生。また、噴火に伴う火山性微動が時々発生。 9 月 28 日、10 月 14 日、27 日の現地調査で、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1300[t/日]、2000[t/日]、2100[t/日]とやや多い状態から多い状態。 GNSS 観測で、桜島島内の一部の基線で 2026 年５月頃から山体膨張に伴うとみられるわずかな伸びが認められる。姶良カルデラ（鹿児島湾奥部）を挟む基線では、地下深部の膨張を示す長期の緩やかな伸びがみられる。 姶良カルデラ深部にマグマが蓄積した状態、火山ガスも概ね多いことから、今後も噴火活動が継続すると考えられ、今後の火山情報に注意。

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
（前頁の続き） 桜島	火口周辺警報 （噴火警戒レベル３、 入山規制）	降灰予報（速報）	28 日　12 時 11 分 30 日　19 時 59 分 30 日　20 時 11 分	噴火発生から１時間以内に予想される、降灰量分布や小さな噴石の落下範囲。
		降灰予報（詳細）	28 日　12 時 21 分 30 日　20 時 24 分	噴火発生から６時間先まで（１時間ごと）に予想される降灰量分布、降灰開始時刻。
雌阿寒岳	火口周辺警報 （噴火警戒レベル２、 火口周辺規制）	解説情報 第 47～51 号	２日、９日、16 日、 23 日、30 日 16 時 00 分	2025 年 9 月に活発化したポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙活動は、５月頃から低下。 阿寒富士北２観測点の傾斜計の 2026 年５月頃からのポンマチネシリ火口方向下がりの変化は、９月 16 日頃から一次鈍化したものの継続。 ポンマチネシリ火口付近の火山性地震は、2026 年６月頃以降、増減はありつつも概ね少ない状態で経過。 火山活動の活発な状態が継続しており、今後も噴火の可能性がある。
北海道 駒ヶ岳	噴火予報 （噴火警戒レベル１、 活火山であることに留意）	解説情報（臨時） 第５号	１日　16 時 00 分	９月 29 日の国交省北海道開発局の協力による上空からの観測では、昭和４年火口や明治火口の地熱域や噴気の状況に前回（8 月 21 日）から特段の変化なし。 山頂火口原浅部を震源とする火山性地震が増加。９月 28 日には、M1.4（暫定値）の地震が発生するなど、地震活動が高まった状態が継続。 ９月 29 日以降はM1.0 以上の地震や火山性微動はなし。 ９月 26 日以降火口近傍の傾斜計で山頂火口原方向が上がる傾斜変動が継続。 今後の火山活動の推移に注意。
	火口周辺警報 （噴火警戒レベル２、 火口周辺規制）	火口周辺警報	２日　07 時 30 分	２日０時頃から山頂火口原方向が上がる傾斜変動が見られる中、山頂火口原浅部の火山性地震が増加。 火山活動が高まっており、山頂火口原内で小噴火が発生する可能性がある。
		解説情報 第６～16 号	２日　08 時 00 分 ２日、３日、４日、 ５日、７日、９日、 12 日、16 日、23 日、 30 日 16 時 00 分	２日０時以降、山頂火口原方向が上がる傾斜変動がやや加速する中、主に山頂火口原浅部を震源とする振幅の小さな火山性地震が増加。２日８時までの前 24 時間の地震回数は山麓観測点基準で５回、山頂観測点基準で 105 回。 火山性地震は、２日 19 時以降は少ない状態で、その後低調に推移。 10 月１日から 24 日まで、M1.0 以上の地震や火山性微動の観測はなし。 25 日に、山頂火口原方向が上がる傾斜変動を伴う継続時間約２分の火山性微動が発生し、火山性微動の発生後、火山性地震が一時的に増加したが、その後はなし。 ９月 26 日頃からの山頂火口原方向が上がる傾斜変動は、鈍化しつつも継続し、山頂火口原浅部の膨張した状態が継続。 山頂の監視カメラで、昭和４年火口からの噴気に特段の変化なし。 火山活動が高まっており、山頂火口原内で小噴火が発生する可能性がある。

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
阿蘇山	火口周辺警報 （噴火警戒レベル２、 火口周辺規制）	解説情報 第 26～30 号	２日、９日、16 日、 23 日、30 日 16 時 00 分	中岳第一火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上 1000ｍまで上がる。 火山性微動の振幅は、一時的な増大が時折見られる。９月 29 日 22 時頃から 30 日 04 時頃にかけて、一時的にやや大きな状態になったが、その後小さな状態で推移。16 日 10 時頃から 12 時頃にかけては、中岳西山腹観測点南北動成分の１分間平均振幅が 2.0[μm/秒]程度と、やや大きな状態となったが、17 日 09 時頃から小さな状態で推移。 ９月 30 日の現地調査で、火山ガス（二酸化硫黄）放出量は 1000[t/日]とやや多い状態。16 日の現地調査では、3200[t/日]と急増し非常に多い状態となったが、19 日には、1200[t/日]と減少。27 日は、1500[t/日]、28 日は、2700[t/日]と多い状態。 １日、20 日、29 日の現地調査で、中岳第一火口底に灰色の湯だまりを確認。湯だまり量は、約６割（29 日は不明）。20 日、29 日には、高さ数ｍ程度の小規模な土砂噴出及び噴湯を確認。 GNSS 連続観測で、2026 年５月頃から、草千里を挟む基線や広域の基線で、草千里付近の深部に推定されるマグマだまりへのマグマの蓄積を示唆する伸びが認められていたが、８月頃から停滞。 火山ガス（二酸化硫黄）放出量が多い状態となるなど、火山活動は高まった状態であり、中岳第一火口から概ね１km の範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性がある。
霧島山 （新燃岳）	火口周辺警報 （噴火警戒レベル２、 火口周辺規制）	解説情報 第 40～44 号	２日、９日、16 日、 23 日、30 日 16 時 00 分	2025 年９月８日以降噴火はない。 監視カメラにより、火口縁上数百ｍの白色噴煙を観測。西側斜面割れ目の噴気はなし。 火口直下の火山性地震は、少ない状態で経過。火山性微動は９月 14 日以降なし。 ８日に韓国岳山頂から実施した現地調査では、新燃岳火口内及び西側斜面の割れ目付近では、前回（2025 年 11 月 21 日）に引き続き地熱域を確認。 GNSS 観測で霧島山を挟む一部の基線で、深部の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められたが、2025 年 12 月中旬頃から停滞。新燃岳付近の膨張を示すと考えられる基線の伸びは 2025 年７月以降認められない。 火山活動が高まった状態が継続。引き続き噴火の可能性がある。
薩摩硫黄島	火口周辺警報 （噴火警戒レベル２、 火口周辺規制）	解説情報 第 41～46 号	２日、９日、16 日、 23 日 16 時 00 分 28 日　14 時 15 分 30 日　16 時 00 分	硫黄岳火口では、白色の噴煙と夜間に高感度カメラで火映を観測。 28 日 13 時 07 分と 14 時 15 分に噴火発生。噴煙は火口縁上 900m。大きな噴石はなし。島内の集落で噴火に伴う少量の降灰を確認。噴火は５月 17 日以来。 火山性地震は少ない状態で経過。火山性微動はなし。長期的に熱活動や噴煙活動が高まった状態が継続。火口周辺に影響する噴火の可能性がある。
諏訪之瀬島	火口周辺警報 （噴火警戒レベル２、 火口周辺規制）	解説情報 第 40～44 号	２日、９日、16 日、 23 日、30 日 16 時 00 分	御岳火口では、時々噴火発生。噴煙は火口縁上 700m、大きな噴石なし。17 日には御岳火口から南南西約 3.5km の集落で鳴動が確認。爆発なし。夜間に高感度カメラで火映を観測。火山性地震は少ない状態で経過。火山性微動は断続的に発生。GNSS 連続観測で、2024 年 10 月以降、島の西側のマグマの蓄積量の増加を示唆する地殻変動が認められていたが、2025 年 11 月頃から停滞。 長期にわたり噴火活動が継続し、御岳火口周辺では、大きな噴石飛散の可能性がある

火山名	特別警報、警報 及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報等		概要
ベヨネース 列岩	噴火予報 （活火山であることに留意）	噴火予報	８日　11時00分	令和５年１月の海上保安庁の上空からの観測で変色水が確認されたことから、噴火警報（周辺海域）を発表。 その後の観測では、令和５年２月を最後に、変色水、浮遊物等の特異事象は確認されていない。 周辺海域に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと考えられる。
		火山現象に関する海上警報解除	８日　11時00分	噴火警報解除
浅間山	噴火予報 （噴火警戒レベル１、 活火山であることに留意）	解説情報 第45～46号	23日､30日 16時00分	９月下旬から火山性地震がやや増加、前１ヶ月間平均の日地震回数は概ね35～38回。噴煙量に変化はなく、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は少ない状態で推移。地殻変動観測でも、山体の膨張を示す変化はなし。 噴火警戒レベルを引き上げるような状況ではないが、火山性地震が増加しており、登山の際は、最新の火山情報を確認してください。
弥陀ヶ原	噴火予報 （噴火警戒レベル１、 活火山であることに留意）	解説情報 第２号	29日　17時00分	10月28日22時以降、想定火口域（地獄谷周辺）から南に３～４km付近を震源とする地震が増加。日回数は28日32回、29日60回発生したが、30日以降は発生なし。 今回の地震による火山活動（地殻変動や表面現象等）の変化は観測されていない。

注１）表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

注２）雌阿寒岳、十勝岳、阿蘇山、霧島山(新燃岳)、桜島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島においては、噴火警報を発表している間（十勝岳においては、噴火警戒レベル３（入山規制）である間)、毎日02時から３時間毎に８回降灰予報（定時）を発表している。十勝岳は16日８時で終了した。